



発行責任者 病院長 岡野友宏
編集責任者 広報委員長 高橋浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1 TEL 03-3787-1151
ホームページ: <http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/>

初めまして！総合歯科のご案内

総合歯科 科長 佐野 晴男

10年ほど前の厚生省(当時)の予測によりますと、約40%の方が亡くなる前に半年以上の寝たきり生活となるのだそうです。さらに、それらの方々のうちの1/5は2年以上の要介護(人の世話になる)状態を強いられるのとのこと。寝たきり状態の方々の一番の楽しみは何でしょう？→食べることです。

若いときのように燃えるような恋(性欲)をしたり、たたく食べたりはできませんが、歯ごたえのあるおいしいものを適量食べたい、との欲求は齢(よわい)を重ねるにつれて強くなってきます。‘食’欲は人間に最後まで残る欲なのです。そんなときに歯が悪かったり、入れ歯の具合が悪かったらおいしくない日々を過ごさなければならなくなります。まさに味気のない老後です(写真1)。



写真1

私は洗足池の近くにありますが東京都保健医療公社荏原病院(旧都立荏原病院)から参りました。前任地では、治療をしてゆく上で特別な配慮が必要な患者さん(寝たきりの方、障害をお持ちの方、脳卒中・心臓病など重い病気をおもちで歯科医院では治療が難しい方、歯科恐怖症の方、等々)の治療を手がけて参りました。中には救急車で荏原病院に運ばれた重症の患者さんも少なくありませんでした。歯科外来へ移動させられないため、病棟のベッドまで往診することも日常茶飯事でした。お医者さんの手当が功を奏してこの世に生き残れる、と一安心した患者さんが命の次に望むことは何だと思えますか？→口から食べたい、それも歯ごたえのあるものを食べたいという欲求なので

す。点滴や流動食は非人間的です。パリパリさくさくと自分の歯で噛むという、できて当たり前のことができなくなると、人は非常に辛く感じます。健康に食事をする事は、生きている喜びをまさに噛みしめることだと痛感してきました。私はおいしく噛むお手伝いをする、歯科という生業(なりわい)が大好きです。



歯科医になって35年、東京医科歯科大学→都立豊島病院→都立荏原病院と、常に地域の歯科医院から対応の困難な患者さんをお引き受けし、腕を磨いてきたつもりです。荏原病院では地域の開業の先生方から絶大な信頼をいただきました。困難な患者さんに直面して困ったら私を思い出していただける、「駆け込み寺」になることができました。

これまでの活動を昭和大学が認めて下さり、この4月から新設された昭和大学歯科病院総合歯科の責任者として働くことになりました。

原則として当科は病院宛(特定の科宛の紹介状は除く)のご紹介状をお持ちの患者さんを拝見することになっていますが、紹介状がなくても私どもでの治療を御希望の方は初診の際にその旨ご遠慮なくお申し出下さい。昭和大学歯科病院には歯科の名医が沢山います。それらの総力を結集して、皆さんに最適の治療を提供するよう努めます。できるだけ痛くなく且つ安全に、自分自身が患者さんの立場であれば受けたい治療を提供するようにいたします。皆様の御受診をお待ちしています。

ややどぎつくて申し訳ありません。写真1は、寝たきりの方のお口の中。残っている歯は20本以上ありますが、ほとんど全て虫歯でとろけてしまって噛めません。8020(80歳で20本以上の歯を残そう)運動も残り方が重要なのです。



教授就任挨拶

美容歯科診療科・科長 真鍋 厚史

この度、2月10日付けで美容歯科診療科教授を拝命いたしました。平成16年6月新診療科として美容歯科が開設されると同時に、診療科長として患者様の口腔内の「健康美増進」と治療後の健康美維持を基本方針として診療に従事しております。

美容歯科は、歯のみならず歯肉の黒ずみ等の対応も試みております。いわゆる歯の漂白や金属の詰め物から白い詰め物への交換なども患者様のご希望に添えるよう治療を行っております。

今般、このような白い詰め物や被せものを中心とした治療(保険外診療)もだいぶ普及しており従来の金属冠と比較すると天然の歯と遜色ない色調と輝きを兼ね備えております。しかしながら金属色の冠を被せるときは金属の厚さが薄くても噛む力に十分耐えられますがセラミックスのような陶材はご存じの通り割れたりかけたりすることがあります。そのためセラミックを用いた治療の行程では残っている歯を金属冠の時より、よりいっそう削らなければなりません。ご自分の歯をたくさん削って、見た目のいい人工物を口の中に入れることが果たして本当の健康美といえるのでしょうか？当診療科ではこのような葛藤を患者様と納得のいくまでお話をして治療計画を立てています。

先にも述べましたが、患者様のご希望が「歯を白くしたい」、「歯並びが気になる」といった場合の治療は医療保険が適用にならない場合があります。また一度保険外治療を行うことによってスムーズに保険診療に戻れない場合も出てきます。私たちも患者様の負担を最小限に抑えるために努力はしておりますが、保険診療には様々な制約がありこれに遵守することが保険医である私たち歯科医師の義務であります。インプラント治療、矯正治療、歯の漂白なども保険外診療です。これらの保険外治療と従来から行っている虫歯の治療や歯周病の治療、入れ歯を入れる治療など併用して治療を進めたい場合があります。しかし現段階では保険診療と保険外診療を同時に進行させていくことは禁止されております。このような事態を回避するためにも、私たちはよりいっそうの患者様に対して「納得のいく十分な説明」が必要であると考えております。

以上のように、美容歯科診療科でも患者様との「深い信頼関係」を築いて「お口の健康美」の実現を目指すとともに、次代を担う若い歯科医師、研修医や学生の指導を行っていく所存です。



スウェーデンの歯科技工士学校の学生さんが本病院を見学

病院長 岡野友宏

イエテボリ大学(スウェーデン)歯学部歯科技工士学校の学生、姿佐藤 von Rosenさんが学校のインターン制度の一環として、本院歯科技工室見学のため訪問されました。東京医科歯科大学や民間の歯科技工所で研修を予定しています。



山口昌治技工士長、岡野病院長とともに本院中央技工室にて。



ヒトが歯を失う二大疾患が、う蝕(虫歯)と歯周病です。う蝕についてはここ20年ほどの間に予防・早期発見・早期治療の効果があがり、大変少なくなってきました。一方、歯周病は歯を支える「歯茎」の病気です。「白い歯をピカピカに」というイメージの白いところを磨く方法では、歯と歯肉の境目にたまった歯垢を十分に除去できないこともあって、ある調査によれば歯肉炎や歯周炎といった何らかの歯周病としての症状を持つ成人の割合は70%を超えるそうです。歯周病がやっかいなのは、あまり痛みを伴うことなく進んでしまうことで、知らず知らずのうちに歯を支える骨(歯槽骨)が溶けてしまう病気です。歯の動揺(グラグラ)、出血、排膿、病的な移動などで気がつきますが、歯石を取るなどをして治療を行えば歯肉の炎症はなくなるものの、溶けてしまった骨はなかなか元に戻りません。

怪我などにより失われた体の一部が元通りに戻ることを「再生」といい、傷跡が残るような治り方の「治癒」とは区別をして考えています。歯周病に対して従来より広く行われてきた歯周外科手術では炎症がなくなりますが、歯周病に冒されて失われた歯槽骨はなかなか元に戻らず、「治癒」を期待する治療方法です。骨ができない理由としては、(図1)に示すように歯茎を覆う口腔上皮が骨の溶けて生じた空隙を素早く埋めてしまうためです。炎症がなくなり「治癒」するわけですが、骨はできてきません。そこで、骨の「再生」が起こるよう空隙を維持するために生体内で吸収する遮断膜を入れて傷口を縫い合わせる方法が開発され(図2、図3)、日本においても平成20年4月より医療保険に組み込まれました。再生治療(GTR法)と呼ばれます。歯周病により破壊された歯茎のすべてに有効というわけではありませんが、歯周病に対する丁寧な治療の上に実施して失われた骨が回復する例が増えてきました。もちろん、歯周病になりやすいような磨き残しの多い口腔内や、糖尿病のような全身の病気がある場合は適応ではありません。

再生療法が受けられるようになったからと安心することなく、やはり病気にならないことに超したことはありません。是非、日々の口腔ケアに気を配って過ごすことが大切です。それでも歯周病でお困りの場合は、どのような対応方法があるのか、再生療法は可能なのかと、担当医に相談をしてみてください。

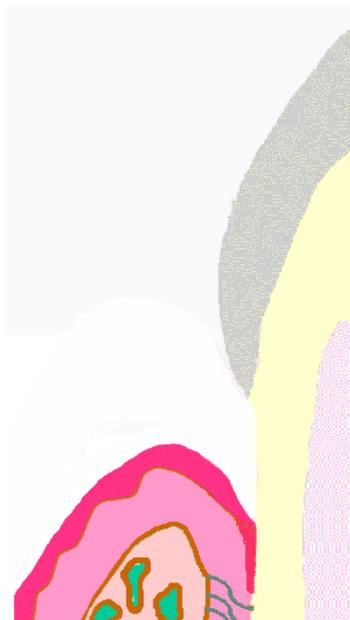


図1

口腔上皮が入りこむ
(治癒の一つの形、正常な治り方)



図2

口腔上皮が入りこまないように
遮断膜を設置して、骨や歯根膜
が再生する空隙を確保する。



図3

歯周外科手術時の遮断膜の設置(GTR法)

第二回昭和大学歯科病院オープンフォーラム開催

— 昭和大学口腔ケアセンターについて —

歯科病院広報委員長 高橋浩二

3月24日 第二回昭和大学歯科病院オープンフォーラムが開催されました。昨年設立された昭和大学口腔ケアセンターについてセンター長の口腔衛生学教室向井美恵教授からその理念、目的、特徴、将来像が紹介されました。昭和大学口腔ケアセンターは次の三つの役割を担うために設立されました。

1. チーム医療の実践

昭和大学関連8病院の入院患者様の口腔ケア(器質的ケア、機能的ケア)の徹底を図ることで誤嚥性肺炎や窒息事故等の発生を防止し、その後の医療を円滑に行うことに貢献するとともに、摂食・嚥下障害や口臭などに対する専門的な医療対応を病棟の医師、看護師、薬剤師等の協力を得て行います。

2. 教育への貢献

医系総合大学の昭和大学への教育貢献として、病棟における口腔ケア等が軌道にのった段階で、昭和大学の学生及び臨床研修医等の研修・実習に資するものとします。

3. 地域医療への貢献

口腔ケアセンターが昭和大学4学部のチーム医療の核の一つとなり、入院患者様の入院中のQOLの向上を目指しますが、同時に退院後も生活する場(在宅、施設など)における地域連携パスに繋ぎ、口腔の医療面からの地域医療に貢献します。

また、本学口腔ケアセンターでは以下の7つの特徴を持つ基本マニュアルを作成し、活用されています。本マニュアルはインターネットを通じダウンロードすることもできます。

(<http://www10.showa-u.ac.jp/~hohelth/oralhealthcarecenter.html>)

昭和大学口腔ケアセンター基本マニュアルの特徴

- 1) 昭和大学付属の8つの病院で行う口腔ケアのマニュアル。
- 2) ケア内容を標準化して各病院で共通の口腔ケアの評価や実施方法が可能ないようにした。
- 3) 器質的ケア、機能的ケアを分けて標準化・均質化している。
- 4) 口腔ケアの内容を標準化するためにケア内容を段階的に3stepに分けている。
- 5) アセスメント項目については共通項目についてアセスメントできるように設定した。
- 6) 各病院における口腔ケアのクリニカルパスの作成を容易とした。
- 7) 標準化した口腔ケアが退院後の地域連携の地域連携パスと共通に使用できるよう簡略さと明確さも目指した。



向井先生に引き続いて、口腔衛生学教室石川健太郎先生により藤が丘病院における口腔ケアセンターの活動とシステムの概要が報告され、藤が丘病院歯科衛生士長円谷英子さんにより藤が丘病院における口腔ケアクリニカルパスの運用における歯科衛生士の役割が報告されました。

会には本学関係者や近隣歯科医師会の先生方のほか、神奈川県歯科医師会、横浜市歯科医師会、川崎市歯科医師会、青葉区歯科医師会、都筑区歯科医師会から先生方が参加され、また多くのコメンタール、コメディカルの方々が参加されました。報告の後には、数々の質問が寄せられ、ディスカッションも熱心に行われ、昭和大学口腔ケアセンターに対する地域の期待がいかに大きいことであるかがまさに明らかとなり、大盛況のうちに会は無事終了しました。

編集後記

平成21年度の歯科病院だよりがスタートしました。より一層紙面の充実を計りたいと思いますので歯科病院スタッフの皆様、お力添えを宜しくお願い致します。

(K.T記)